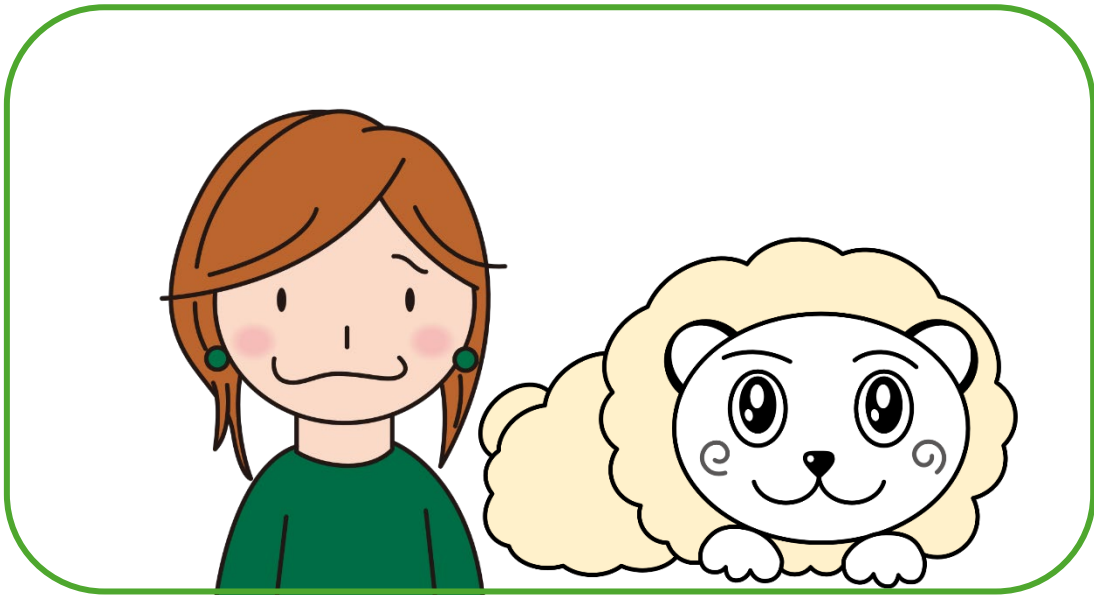


# 書籍【Laravel の教科書】

## Laravel11 対応サポートガイド

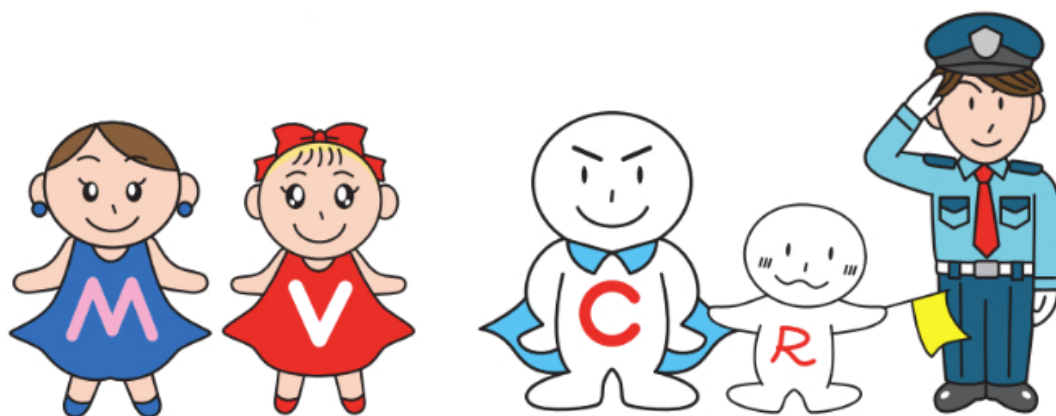


Version 1.0

作成日：2024年3月24日

## 内容

はじめに .....	3
Laravel のディレクトリ (フォルダ) 構造の変更 .....	5
<b>Laravel11 の app ディレクトリ</b> .....	6
<b>Laravel11 の bootstrap ディレクトリ</b> .....	7
Middleware (ミドルウェア) はデフォルトで非表示に .....	8
Middleware (ミドルウェア) の登録場所の変更 .....	9
Gate (ゲート) の登録場所の変更 .....	11
ホームの登録場所の変更 .....	13
その他の変更事項 .....	14



## はじめに

書籍では Laravel10 の使い方をご紹介していますが、Laravel は 2024 年 3 月 12 日にバージョンアップし Laravel11 がリリースされました。

基本的な使い方には変わりはありませんが、**Laravel11 ではファイル数が大幅に減り、各種登録場所が変わっています**。本ファイルは、Laravel11 を使って書籍にあるコードを実行した際に、変更する必要がある部分について解説します。

～★～☆彡～★～☆彡～★～☆彡～★～☆彡～★～☆彡～★～☆彡～★～☆彡～



「Laravel11 では、ファイル数がかなり減ったんだね。  
なんで？」



「ファイル数を減らすことで、分かりやすい構造にしたかったみたいだよ。」



「なるほど。それは良いことだね。ただ、一気にファイルが減ると、色々影響がありそう。」



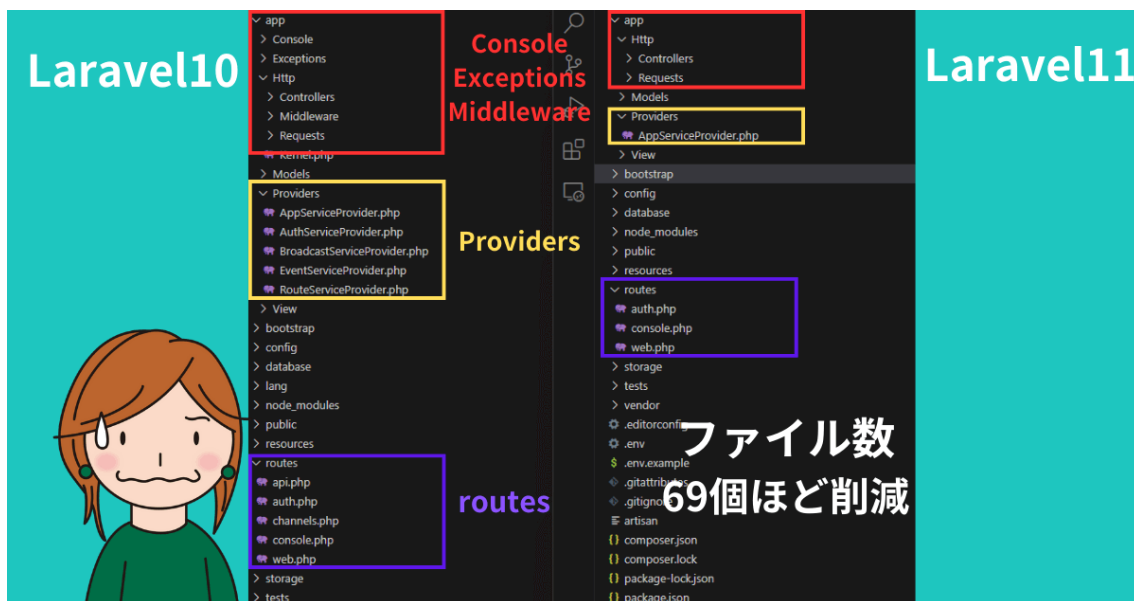
「うん。正直あるよ。ここから先、Laravel11 になったことで、どんな変更があるか解説していくね。」

Laravel11 の変更点について詳しく知りたい場合は、下記ブログ記事も参考にしてください。

<https://biz.addisteria.com/laravel11/>

## Laravel のディレクトリ（フォルダ）構造の変更

- 該当する章：3-2 Laravelのディレクトリ（フォルダ）構造
- 該当ページ： p 123~125



Laravel11 では、Laravel10 と比べて大幅にファイル数が減りました。減ったファイル数は、およそ 69 個ほど。そのため、書籍の 123 ページからご説明しているディレクトリ構造にも変更点があります。大きく変わったのは、app ディレクトリと bootstrap ディレクトリです。書籍の 124 ページから 125 ページに説明があります。この部分について、変更点をお伝えします。

## Laravel11 の app ディレクトリ

Laravel11では、appには、次のディレクトリが入っています。

**Http**

**Models**

**Providers**

**View**

なおLaravel10以前では、MiddlewareもHttpの直下に入っていましたが、Laravel11  
では、デフォルトではMiddlewareは表示されなくなりました。

appディレクトリ内のディレクトリをひとつずつ説明します。

### ▶ Http

Httpは非常によく使う部分です。デフォルトでは、次のディレクトリが入っています。

**Controllers**

**Requests**

Controllersには、コントローラファイルが入ります。

### ▶ Models

Modelsには、モデルファイルが入ります。

## ▶ Providers

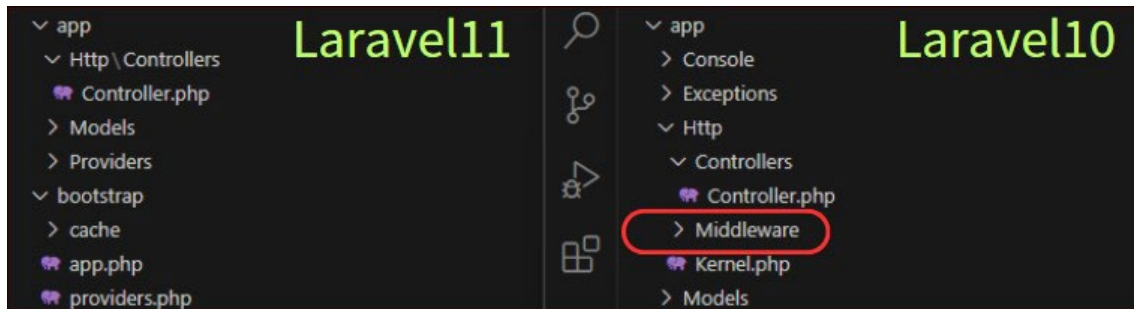
Providersには、Laravel起動時の処理を設定します。最初から使用する必要はありませんが、Webアプリを開発する中で、編集する機会が出てくるでしょう。なおLaravel10ではProvidersの中にはデフォルトで5個のファイルが入っていましたが、**Laravel11では、AppServiceProvider.phpファイルしか入っていません。**

## Laravel11 の bootstrap ディレクトリ

bootstrapには、フレームワークの起動時の処理を行うapp.phpファイルが入っています。以前はこのファイルを操作する機会は、ほとんどありませんでした。**ですが**  
**Laravel11からは、このapp.phpファイルにミドルウェアなどを登録します。**

## Middleware（ミドルウェア）はデフォルトで非表示に

- 該当する章：8-1 ミドルウェアって何？
- 該当ページ： p 239～240



これまでapp/Http/Middlewareには、デフォルトで9個のミドルウェアファイルがありました。Laravel11では、フォルダごと、ごっそりMiddleware(ミドルウェア) が消えています。さらに、Middlewareを登録するためのapp/Http/Kernel.phpも消えています。

ただミドルウェアファイルは、単に表示されていないだけで vendor ディレクトリの中に入っています。そのため、これまでどおり使えます。vendor ディレクトリについては、書籍の 259-260 ページを参照してください。

また、Laravel11でのMiddlewareの登録場所は次ページでご紹介します。



## Middleware（ミドルウェア）の登録場所の変更

- 該当する章：8-2 ミドルウェアで管理者のみがアクセス可能にする
- 該当ページ： p 246

Laravel10 では作成した Middleware は app/Http/Kernel.php に登録しますが、

Laravel11 では bootstrap/app.php に登録します。Laravel11 ご利用の際は、書籍内で

作成する RoleMiddleware は、下記のように bootstrap/app.php 内に登録してくださ

い。

### 【bootstrap/app.php】

```
<?php

use Illuminate\Foundation\Application;
use Illuminate\Foundation\Configuration\Exceptions;
use Illuminate\Foundation\Configuration\Middleware;
// 追加
use App\Http\Middleware\RoleMiddleware;

return Application::configure(basePath: dirname(__DIR__))
    ->withRouting(
        web: __DIR__.'/../routes/web.php',
        commands: __DIR__.'/../routes/console.php',
        health: '/up',
    )
    ->withMiddleware(function (Middleware $middleware) {
        // 追加
        $middleware->alias([
            'admin' => RoleMiddleware::class
        ]);
    });
```

```
    });  
  })  
  ->withExceptions(function (Exceptions $exceptions) {  
    //  
  })->create();  
  inate¥Support¥ServiceProvider;
```

## Gate（ゲート）の登録場所の変更

- 該当する章：8-3 Gate（ゲート）を使った動作や表示の制限
- 該当ページ： p 251～252

Laravel10では、Gate（ゲート）は、app/Providers/AuthServiceProvider.phpに登録しました。ですがLaravel11では、AuthServiceProvider.php はなくなっています。

**Laravel11では、Gateはapp/Providers/AppServiceProvider.phpに登録します。**

書籍ではAuthServiceProvider.phpにGateを登録するよう記述していますが、Laravel11ご利用の際は、下記のように、AppServiceProvider.phpにGateを記述してください。なお記述するコード自体に変更はありません。

### 【AppServiceProvider.php】

```
<?php

namespace App\Providers;

use Illuminate\Support\ServiceProvider;
// 追加
use Illuminate\Support\Facades\Gate;
use App\Models\User;

class AppServiceProvider extends ServiceProvider
{
    /**
     * Register any application services.
     */
    public function register(): void
```

```
{  
    //  
}  
  
/**  
 * Bootstrap any application services.  
 */  
public function boot(): void  
{  
    // 追加  
    Gate::define('test', function (User $user) {  
        if($user->id === 1) {  
            return true;  
        }  
        return false;  
    });  
}  
}
```

## ホームの登録場所の変更

- 該当する章：10-4 メニューとロゴをカスタマイズ
- 該当ページ： p 313

デフォルトでは、ログイン直後はダッシュボード (/dashboard) が表示されます。書籍では、この部分を変更し、投稿の一覧ページ (/post) が表示されるようにしました。

ただ、この部分でも変更が必要です。Laravel10 では、ログイン直後に表示されるページを変更するために、app/Providers/RouteServiceProvider.php のコードを変更しました。で

すが、Laravel11 では、このファイルがなくなっています。そのため、同じ動作をするには

下記のように、routes/web.php ファイル内のダッシュボードのルート設定を変える必要があります。

### 【web.php】

```
// 無効にする
// Route::get('/dashboard', function () {
//     return view('dashboard');
// }->middleware(['auth', 'verified'])->name('dashboard');
// 追加
Route::get('/dashboard', [PostController::class, 'index'])->middleware(['auth'])->name('dashboard');
```

※この変更により、URL は/dashboard のまま、画面には投稿一覧が表示されるようになります。

## その他の変更事項

ほか、重要度は低いものの、書籍に記した説明と、Laravel11版との相違を下記の表にしました。

ページ	該当箇所	修正前	修正後
92	マイグレートでデータベースにテーブルを作成する		現在は Breeze インストール後にマイグレートが実行済みなので、本操作は不要です。ただ、実施しても特に問題はありません。
166	Laravel と連携できるデータベース	MariaDB10.3 以上 (バージョンポリシー) MySQL5.7 以上 (バージョンポリシー) PostgreSQL10.0 以上 (バージョンポリシー) SQLite3.8.8 以上 SQL Server2017 以上 (バージョンポリシー)	MariaDB10.3 以上 (バージョンポリシー) MySQL5.7 以上 (バージョンポリシー) PostgreSQL10.0 以上 (バージョンポリシー) <b>SQLite3.35.0 以上</b> SQL Server2017 以上 (バージョンポリシー)